

回答者（M2母）：「手話言語」「音声日本語」「書記日本語」  
いずれにしても、年齢に応じた語彙数、助詞の活用、言い回し  
のバリエーションなど、心配に感じている点は多々あります。

就学に際し、未知の学習言語を学習するためには、生活言語  
の一定の語彙量がなければ理解するのは難しいと考えています  
聞こえにくい子にとって、「一定の語彙量」の獲得は常につ  
いて回る課題だと認識しています。

手話とは別に、書記日本語を意識した日本語の言い方（音韻）  
についても小さい頃から意識していく必要があると思っています。  
す。

また、言葉を知っていたとしても、その意味や道理まで理解  
しているかも、気を配っていききたいです。

（聞いた話ですが、「風邪」を知っていても、熱以外の症状が  
あることを知らなかった子がいました。鼻水は花粉症、腹痛は  
便秘など経験則からの知識で、咳も頭痛も風邪の症状という認  
識がなかったそうです。）